

・三位一体後第六主日

泉のほとり

今月の詩編「第二八編」

嘆き祈るわたしの声を聞いてください。

至聖所に向かって手を上げ

あなたに救いを求めて叫びます。



自分の行いに頼らず

聖書が伝える福音は、主イエスがわたしたちの罪の赦しのために十字架で死んで、復活されたことです。だから主イエスを信じ、生き方を改めて洗礼を受ける者は誰でも神さまの子どもにしていただけるのです。パウロはこの福音を伝えて、各地に教会を建てました。わたしたちの教会も、この福音によって建てられたのです。

しかし、そのように福音によって建てられたガラテヤの教会に、別な考えを持ち込んだ人たちがいました。彼らは「主イエスを信じて洗礼を受けただけでは足りない。よいことをしなければ救われない。だからユダヤ人のように律法を守って割礼を受けなさい」と言ったのです。

ユダヤ人が国を離れて生活した時、自分たちが神の民であることを忘れないように、安息日と割礼の儀式を厳守しました。この二つは、神の民である彼らの誇りだったのです。それをガラテヤの教会の人にも守らせようとしたのです。しかしパウロは、絶対にそれを認めませんでした。

神の民として誇りを持つことは、よいことです。よいことをするのに、どうして反対するのでしょうか。実はこのことはとても大きな問題を含んでいるのです。

旧約聖書は、神さまの戒めを守って正しい生活をするようにと教えます。しかしながら、神の民の歴史の中で、これでは救われないことが次第に明らかになりました。ひとつは、戒めを

守りきれないことです。「わたしを置いて他に神があつてはならない」と言われながら、どうしても自分を第一にしてしまいます。戒めが守れませんが、でも固い意志でそれを守る人もいました。でもそういう人は神さまと人を愛する愛から遠くなりました。何故なら、戒めを守れば救いは当然の報酬になるからです。その人はもはや神さまの恵みに頼らなくてもよくなります。そして同時に、自分を誇つて、自分と同じようにできない人を見下すようになるのです。でも人を見下す信仰は、絶対に正しい信仰ではありません。

だから神さまは、律法によらず、主イエスの十字架によって人を救うこととされたのです。十字架の恵みによって救われたのですから、自分には何の誇りもありません。だから人を見下すこともできません。あるのは、神さまに対する感謝だけです。それが、神さまがわたしたちに望んでおられる生き方なのです。

だからもう、こんな自分では救われないのでは、と思うのをやめましょう。自分は救われて当然と考えるのは罪ですが、こんな自分では救われないと思うのも罪です。救いは主が与えてくださるものです。

だからわたしたちはよい行いをするのです。神さまを愛し、隣人を愛するように努めます。自分が救われるためではありません。こんな自分が主イエスの恵みによって救われているから、それに感謝して、よい行いに生きるのであります。

主よ、来てください

渇きに満ちている世界を憐れんでください。

主イエスよ、あなたの証しの言葉を

なお確かに語らせてください。

世界中の教会が、日本の教会が、

暗夜にすでに朝の光を先取りする

明けの明星である主イエスの輝きを、

より明るく指し示すことが

できますように。

聖霊が呼び起こす望みの叫びを

絶やさないでください。

「主よ、来てください」と

叫び続けます。

いのちの水の欲しい者は来るようにと

招く声を語り続けさせてください。

必ず来てくださる主よ、

将来に滅びしか見えなくなっている、

この世界に、

望みの言葉を書かせてください。

あなたの花嫁、新しいイスラエル、

あなたの教会を励ましてください。

群の小さいことにひるむことなく、

大きく確かな、慰めの望みに

生きることができますように。

み言葉を聴かせ続けてください。

アーメン

平野克己 「祈りのともしび」より

加藤常昭の祈り

今日のお知らせ

○今日は諸聖徒記念礼拝です。すでに眠りについた諸聖徒を記念し、その写真を掲げて礼拝をします。

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒースービスがあります。園舎二階のリズム室ではぶどうの会が開かれ、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の後、諸聖徒を記念する会をします。聖徒と遺族を紹介し、今年二月に帰天された土井寿美子姉の信仰を、楠本英子姉に語っていただきます。

○お昼は愛餐会です。今日のメニューは、夏風穴子ちらし寿司、フランクフルト、グリーンサラダ、すまし汁、すいかです。ご期待ください。

○伏差しにバザー券を配布いたしました。各家庭に一〇枚です。積算は九月末までに、事務所でお願ひします。

○明日から三日間、附属幼稚園年長組の榊井沢キャンプが行われます。幼稚園教師の他、スタッフ、吉村牧師、黄副牧師が参加します。

○明日、東京説教塾の例会がホールで行われます。

○紫園香音楽伝道節は、本日、花野井バプテスト教会のチャペルコンサートで奉仕をします。お祈りください。

ラバウル便り

ソドムとゴモラのメッセージ

今年からスナム地区の教区にある諸教会の牧者と信徒伝道者が頻繁にオイスカ教会に來られてバワフルなメッセージを語って下さっています。

六月三日、七日そして七月一日と連続して創世記にあるソドムとゴモラの説教が語られました。彼らが打ち合わせをして同じ箇所を説教したのではありませんから、これは正に現在神様がオイスカラバウル教会を通してこの世に語りたいメッセージである事と受け止めています。「逃れて(邪悪な生活に染まっているソドム町から離れて)、自分の命を救いなさい。後ろを振り返って見ればならない(救いに入れられる前に経験した人生のどんな楽しみ、悲しみ、この世の希望・・)を懐かしがってはならない。低地(この世)にはどこにも立ち止まってはならない。山に(神様とお会いできるところ)逃れなさい。そうしなければ、あなたは滅びます」。

滅びから救われるはずだったロトの娘二人の婚約者はソドムとゴモラの滅びの話は冗談だと笑い、滅んでしまいました。ノアが山の上に箱舟を作ったのを笑った人たちは溺れ死んでしまいました。

ソドムとゴモラの町と一緒に滅びから救われたにも関わらず、み言葉への不従順の故、後ろを振り返ったロトの妻は塩の柱になってしまいました。

アブラハムの親族であるロトのゆえに彼の妻と二人の娘そして婚約者の二人も神様は救いたいと願われました。ノアとノアの家族も同じように、ノアの信仰のゆえに救われました。「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます。使徒徒言行録一六三」。神様の眼差しが注がれている一人の信仰者の存在は家族の中に於いて、地域の中そして国の中に於いて決して小さい事ではないというメッセージを頂きました。

今は終わりの時、多くの人の心がこの世(低地)の事柄に奪われ、山(天国)に焦点を合わせた生き方が難しくなっています。自分は救われるべき存在ではありませんが、イエス様に繋がっていれば大丈夫です。

聖書の会へどうぞ

7月1日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「救いの喜び」

詩編32編

菊池美穂子 副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「赦されたバラバ」

ルカ23章13〜25節

吉村和雄 牧師

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌讃21 205番 小さい羊が

説教「信仰のないわたしを」

聖書マルコ9章14〜29節

説教者 吉村和雄 牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌3番 239番

詩篇第28編

説教「罪人を捨くため」

聖書マタイ9章9〜17節

説教者 黄允湜 副牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 205番
小さい羊が

説教 「キリストに出会うための人生」

聖書 マルコ8章22節～26節(新約P77)

司式 森洋之兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允湜 副牧師

前奏曲「アレグロ」J. S. バッハ

○ 讃美歌21 205番

1. 今日のはかりが つくられた日よ
やみの中にも 「ひかりかがやけ」
2. 今日のはせいなる あんそくの日よ
つかれた心 新たにされる
3. 今日のはいわが みちあふれる日
あらそいさわぐ 波もしずまる
4. 今日のはみ神に とともにいのる日
心をたかく み前に上げよう
5. 今日のは主イエスの よみがえりの日
われらを生かす 愛をたたえよ アーメン

○ 教会学校生徒による讃美
「ぼくのこころのなかが」

○ ピアノによる讃美
「天の国めざして」

○ 小さい羊が

1. 小さい羊が家をはなれ
ある日とおくへあそびにいき
花さく野はらのおもしろさ
かえる道さえ忘れまして
2. けれどもやがて夜になると
あたりはくらくさびしくなり
うちがこいしく羊はいま
声もかなしくなっています
3. なさけの深い羊飼いは
この子羊のあとをたずね
遠くの山やま谷そこまで
まいごの羊をさがしました
4. とうとうやさしい羊飼いは
まいごの羊を見つけました
だかれて帰る この羊は
喜ばしきにおどりました アーメン

聖餐曲「まもなくかなたの」 編曲バリー

後奏曲「マエストロ」 M. E. ホッフ

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 7番 355番

詩篇 第28編(旧約P858)

説教 「野の花を見なさい」

聖書 マタイ6章25節～34節(新約P10)

司式 森洋之兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「フーガハ長調」J. S. バッハ

○ 讃美歌 7番

○ バリトンによる讃美
「われ聞けり」 讃美歌II 136番

○ 聖歌隊による讃美
「主は導きたもう」

みどりゆたけき木かげの 泉にわれらをともない
疲れし心を 主は休ませたまう だが主は水でなく
血をもてあがないて 歌をあたえよるにも
かなしみぬぐいたもう
口のひかりあふるる山に 我らを導き
また暗き谷間に 主はともに行きたもう
かなしみにも 苦しみにも 悪魔の力にも
慈しみによりて 主は我らを勝たせたもう
ぬかるみに足をとられ 進めない時に
栄光へと引きあげて 主は歩ませたまう
水でなく尊き血をもてあがないて
歌を与えよるにも かなしみをぬぐいたもう

○ 讃美歌 355番

聖餐曲「御神の業は常に良し」 S.ホッフ=エート

後奏曲「マエストロ」 M. E. ホッフ